かがやき

令和８年３月６日
ＮＯ，１３
紀の川市立
貴志川中学校
校長　山田　浩史

令和７年度 卒業証書授与式！

校庭の木々に春の息吹を感じられる季節となった本日、令和７年度第79回紀の川市立貴志川中学校卒業証書授与式を挙行し、１５５名の卒業生に、卒業証書を授与いたしました。多くの来賓や保護者のご臨席いただきこの皆様にご盛大に、そして静粛に開催できましたこと、心よりうれしく思います。

３年前、新型コロナウイルス感染症の影響が見え隠れする中、以前まのだ規模に戻して実施した入学式当日、はじめて貴志川中学校の校門をくぐった時のことを覚えています。三年間を振り返ると、１年生の５月に、新型コロナウイルス感染症が五類に移行され、輝闘祭、夏季総体やコンクール、かがやき祭など感染症に十分に配慮しながら学校生活も徐々に従来の姿を取り戻してきた１年間でした。そして２年生、初夏、吹奏楽部の演奏に続き、堂々と入場行進した輝闘祭、秋には３日間、大人社会の普段の慣れ親しんだ居場所や仲間から離れ、そして３年生、想定を超える酷暑の中おこなわれた最後の夏季総体、皆さんの多くの輝きに出会うことができました。残暑が残る９月末、東京方面への修学旅行では、友人とともに全力で思い出作りをしていた皆さんの様子を学年の先生方から聞かせていただきました。秋も深まった頃、かがやき祭では、３年生だけの合唱のハーモニーは素晴らしく、多くの聴衆の心を動かすものとなりました。活躍した３年生の皆様、「アフターコロナ」の中で、徐々に、しょうかい、生活の中で、はなさいたけ、周りを思いやれる優しさ、時間を経験したことを覚えています。

卒業制作！モザイクアート完成

今日、このように立派に中学校を卒業します。誕生したはずです。そのときから今日まで様々な出来事があったはずです。その中で、徐々に、しょうかい、生活の中で、はなさいたけ、周りを思いやれる優しさ、時間を経験したことを覚えています。

本校では、系統的なふるさと学習に取り組んでいます。１年生では、貴志川町の良いところを紹介し、２年生では、「中学生が提言する将来の貴志川町」というテーマで１２月に発表をおこないました。その学習成果の作品は、「貴志川町の来の美しい貴志川町」と題した１６０枚のアクリル画でアートを作成しました。

皆さんの前途に幸多かれ…

卒業式の前に、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開催され、日本選手団は、前回の北京大会を上回る２４個のメダルを獲得しました。怪我を抱えたまま出場した選手も、天候に悩まされ惜しくもメダルを逃した選手が、「全力を出いしきろうとする姿」に、私たちは、感動と勇気をもらいました。

皆さんの前途に幸多かれ…

本日この貴志川中学校を卒業し、４月から一人一人それぞれの道を進むことになります。皆さんは、大人社会に仲間入りする２０３０年から２０４０年代は、「予測不可能な社会」と言われています。先日、実際、アメリカとイスラエルが突然イランを攻撃し、さらに分断と混迷を深めた国際情勢、近年多発する自然災害、止まらない物価高騰など「これまでの常識が通用しない時代に巣立っていく皆さんに、先日、「ふこのようなミライブ」のウイングス平阪さんの「全力投球」という曲の言葉として送ります。

明日の君に向って　全力投球すれば
届きっと何かが見えるはず　全力いっぱい投げるんだ
届かなくてもいいから　決して諦めないで
明日を信じて

未来のミットめがけて　全力投球すれば
届きっと誰かが見てるはず　全力いっぱい投げるんだ
自分を信じてもいいから　全力投球で・・・

「予測不可能な社会」だからこそ、明日を信じて、自分を信じて全力で挑みこそ、自分を信じて全力で挑み続けることが大切なのだと思います。その姿を見た、誰かが挑戦する手を差し伸べる先に何か光が見えてくるかもしれません。また、これからの時代には、皆さんの前途には、「限りない可能性」とさまざまな保護者の皆様、「未来」が開けていく長い年月にわたり、溢れんばかりの愛情で慈しみ、育てていただきたいと思います。